

イースター休暇を控えてポジション整理も

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➡	米決算発表が波乱要因となる可能性 予想レンジ: 81.70 ~ 84.50 円	2 - 4
<a href="#">カナダ/円</a>	↘	下値模索の動き 予想レンジ: 84.00 ~ 88.00 円	5 - 6
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>	一週間の予定を一覧で表示		7 - 8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD / JPY

## ドル/円 4/11~15の主な推移

※4時間足



4/11 Monday	前週末に米国の予算協議が基本合意に至り、米連邦政府機関の一部閉鎖が回避されたことなどを好感され、早朝から時間外のNYダウ平均先物が上昇。これを受けてクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)で円安が進むと、ドル/円は連れ高となり、85.15円の高値をつけた(①)。しかし、日本株が軟調に始まった上、早朝に一時113ドル台まで上値を伸ばしていた原油が上げ幅を縮小する流れになる中でクロス円が反落すると、ドル/円も連れて下落に転じた。その後は84円台後半でのみみ合いが続き、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン副議長が「食品と燃料の価格上昇がインフレや個人消費に与える影響は一時的で、金融政策の変更を正当化するものではない」などと述べたことを受け、米国債利回りが大幅に低下すると、ドル/円はこの日の安値84.50円をつけた。
4/12 Tuesday	8時8分に千葉県で震度5弱の地震が発生すると、円は全面的に上昇し、ドル/円は下落。11時過ぎに日本の原子力安全保安院が原発事故の深刻度を国際評価尺度において最悪の「レベル7」に引き上げた上、12時過ぎに東京電力が同原発事故による放射性物質の放出量はチェルノブイリ原発の事故を超える可能性があるとの見解を示すと、ドル/円は83.46円まで一段と下げた(②)。夕方にユーロ/円が反発すると、ドル/円も連れて84円台を回復したが、日本の原発事故等を嫌気してNYダウ平均が大幅に下落すると、ドル/円は再び83円台半ばまで値を下げた。
4/13 Wednesday	仲値公示に向けたドル需要に対する思惑や、日経平均株価の上昇を受けたクロス円での円売りを背景に、ドル/円は84.26円まで上昇した(③)。しかし、その後は上値が重く、米国債利回りが低下するに従い、再び83円台半ばまで値を沈める展開となった。
4/14 Thursday	東京序盤にテクニカル上の重要ポイントとされる200日移動平均線(当時:83.45円)の下抜けを狙った売り仕掛けが強まると、ストップロスを巻き込んで83.28円まで値を下げた。その後は一旦83円台半ばまで値を戻すも、欧州債務不安が再燃してユーロ/円が値を下げると、ドル/円は再び下落。21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が41.2万件と予想(38.0万件)よりも悪い結果になったことを受けてドル売りが強まると、82.95円の安値をつけた(④)。しかし、この水準では底堅く、米国債利回りが上昇に転じると、ドル/円は83円台半ばまで値を戻した。
4/15 Friday	事業法人の決済が集中するゴトー(5・10)日におけるドル需要への思惑を背景に、東京序盤のドル/円は83.78円まで上昇した(⑤)。しかし、その後は上海株の下落などを受けてクロス円が軟調に推移すると、ドル/円も連れて軟化。前日安値82.95円では反発するも戻りは弱く、21時30分に発表された米3月消費者物価指数のコア指数が前年比+1.2%と予想通りの内容だったことなどを確認すると、ドル/円は再び軟化した。

## USD / JPY

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

## 今週の見通し

今週の22日(金)および来週25日(月)は世界各国でイースター休暇となる。この休暇を控え、今週は為替相場全体がポジション調整をメインに動くと思われる。また、来週27日には米連邦公開市場委員会(FOMC)が予定されている。今回のFOMCについては、米国の量的緩和政策からの出口戦略の開始時期を睨んで声明の内容が注目されるのはもちろんのこと、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長がFOMC終了直後に初めての記者会見を行う予定となっており、かなり市場の関心は高い。この一大イベントを睨んで、今週から少しずつ様子見に入る向きも出てこよう。これらを考慮すると、今週のドル/円相場は基本的に大きな方向感は出にくいものと考えられる。

とはいえ、米国では19日に3月住宅着工件数及び建設許可件数、20日に3月中古住宅販売件数、21日に週次の新規失業保険申請件数や4月フィラデルフィア連銀景況指数など、比較的注目度の高い経済指標の発表が連続で予定されており、これらの結果は発表直後のドル/円相場で手掛かり材料視されるものと考えられる。また、今週は米国の主要企業の決算が多く発表される(P8参照)。決算結果を受けて株価が大きく動くようなら、クロス円主導でドル/円も上下動すると見られる。市場参加者が少なくなれば、瞬間的な乱高下の値幅が大きくなることもあり得るだろう。波乱要因として注目しておきたい。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 81.70~84.50円)

## USD/JPY

## テクニカル分析

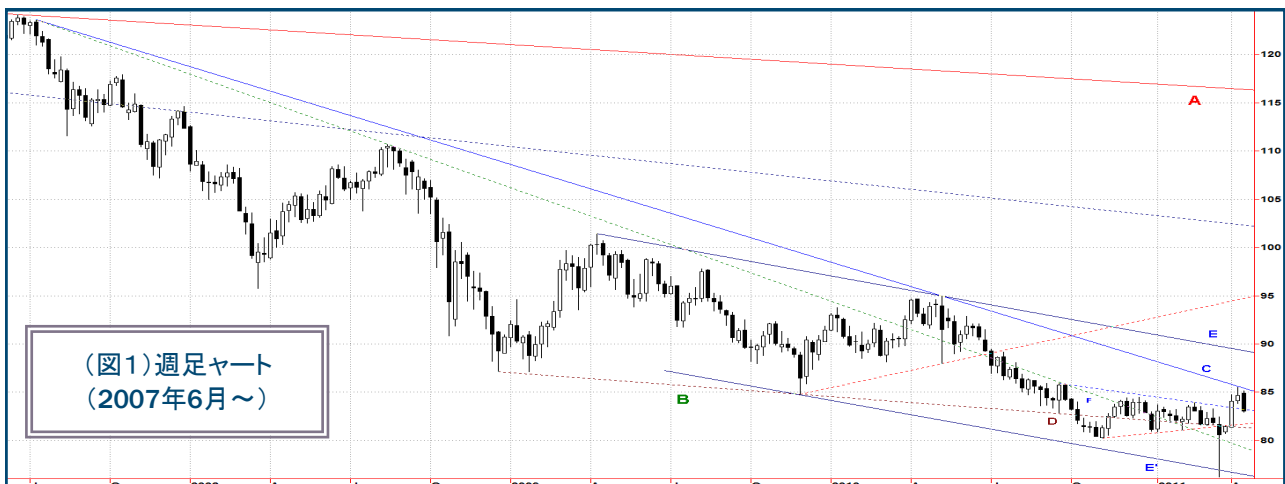
●ドル/円 4/15週足引値:83.06円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値85.15円～安値82.95円と2円20銭の値幅の一週間となった。

先週は85円近辺で取引が始まったが、高値85.15円(豪ドル/円の90.00円を付けに行ったもの)から反転下落し、週末に安値82.95円を見るなど、なべて下落の動きとなった1週間であった。週末の引値83.06円は、20日線(83.09円、4/15)、200日線(83.42、4/15)を下回るが、60日線(82.48円、4/15)、40日線(82.44円、4/15)を上回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(4/15時点)は上限が86.01円、下限が80.15円であり、バンドの上限はやや下落、下限は上昇、とバンド幅は縮小している。

週足チャート(図1)では、先週は大きな陰線となった。先々週で一旦は、2007年7月の123.63円からの上値抵抗線(先週は85.64円)に当たり、反転下落した格好だ。この線は今週85.25円にある。

日足チャート(図2)を見て、現在の基本的な考えは「上昇相場の中での調整的下落局面」である。先週の下落を引き継ぎ、今週はまず下落の動きが先行すると見られるが、その後が焦点となろう。4/06高値85.53円から3円±20銭までの下落であれば、折り返し反転上昇の動きとなると見られる。ただし、82.00円を下回ると下落相場への転換に注意。82.30～85.00円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。



## CAD/JPY

## カナダ/円 4/11~15の主な推移



4/12  
Tuesday

福島原発事故の国際評価尺度を最悪の「レベル7」に引き上げた事や、東京電力幹部が「放射性物質の放出量がチェルノブイリを上回る可能性がある」との見解を示した事を嫌気して日経平均株価が150円超の下落となると、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は一時87円を割り込んで下落した。その後88円台まで急速に値を戻す場面もあったが、カナダ中銀(BOC)が理事会後に「さらなる金融緩和の解除は慎重に行うべき」との声明を発表した事で、次回会合での利上げ観測が後退すると、カナダドル売りが強まり、カナダ/円は86.53円まで下落した。(①)

4/13  
Wednesday

アジア・欧州の株式市場が堅調に推移した事や一時下落していた原油先物価格が持ち直した事を背景にカナダ/円は87.75円まで上昇したが、その後格付け会社S&Pが「ギリシャの債務再編があれば50-70%の債務減免が必要になる」との見解を示した事に続き、ショイブレ・独財務相も「ギリシャの財政が持続不可能なら債務再編が必要」との見解を示すとユーロ/円が大きく下落した。これにつれてカナダ/円は86.66円まで下落した。(②)

4/14  
Thursday

前日に広がったギリシャの債務再編に対する懸念から、同国10年債利回りが13%を超えて過去最高水準を更新すると、ユーロが下落。ユーロ圏債務懸念の再燃を嫌気して欧州株が下げ幅を拡大した事もあってリスク回避の動きが強まると、カナダ/円は85.86円の安値を付けた。(③)しかしその後、安く始まったNYダウ平均株価がプラス圏に持ち直した事や、原油価格が上昇した事を受けてカナダ円も上昇に転じ86.93円まで反発した。

## 上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり  
→リスクを取ることに積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

## 下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## 今週の見通し

先週のカナダ/円相場は85.86円～89.12円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約2.6%の下落(カナダドル安・円高)となった。先々週の高値89.49円を上抜けられず、先々週の安値86.62円を下抜けてしまった先週の動きからは、やや下向きの圧力を感じる。材料的には加3月消費者物価指数(19日)や加2月小売売上高(21日)が注目され、いずれも前回は上回る結果が予想されているが、12日に、カナダ中銀(BOC)が5月の利上げを示唆しなかった事や、今週末には欧米でイースター休暇を迎えるためポジション整理目的のカナダドル売りが出やすい事などから、経済指標の結果に対する反応は限定的となりそうだ。主要国の株価や原油価格の動向次第という面はあるものの、今週のカナダ/円は上値が重い展開が予想される。(神田)

(予想レンジ:84.00～88.00円)

## テクニカル分析



## ●カナダ/円 4/15週足引値:86.49円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/4/15安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/08/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。カナダ/円は3/17の安値77.60円から反発上昇している。取引値は20日線(85.82円、4/15)や60日線(84.22円、4/15)、200日線(82.71円、4/15)よりも上値に位置している。ボリンジャーバンドは4/15現在、上限90.37～下限81.27円であり、バンド幅は縮小傾向である。

4/08に直近高値の89.49円を見てから調整的な下落となっている。この調整下落の動きがどこまで深くなるかが焦点だ。調整を経て再度上昇するものと見られるが、下値はまだ見え切らず、様子を探ることになる。84～88円のレンジが先行するのであろうか。

上値ポイントは①89.49円(4/08高値)、②90.27円(2009/08高値)であり、下値ポイントは①85.82円(20日線、4/15段階)、②84.22円(60日線、4/15段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (4/18~22)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/18 (月)	07:45	◎	(NZ) 第1四半期消費者物価 [前期比]	+2.3%	—
		◎	(NZ) 第1四半期消費者物価 [前年比]	+4.0%	—
	23:00		(ユーロ圏) 4月消費者信頼感・速報	-10.6	-11
	23:00		(米) 4月NAHB住宅市場指数	17	17
4/19 (火)	10:30	○	(豪) RBA議事録	—	—
	17:00		(ユーロ圏) 2月経常収支	-7億EUR	—
				(ユーロ圏) 2月建設支出 [前月比]	+1.8%
	20:00	◎	(加) 3月消費者物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.6%
		◎	(加) 3月消費者物価指数 [前年比]	+2.2%	+2.8%
	21:30	◎	(米) 3月住宅着工件数	47.9万件	52.5万件
	21:30	◎	(米) 3月建設許可件数	51.7万件	54.0万件
	21:30		(加) 3月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	—
	21:30		(加) 2月卸売売上高 [前月比]	+1.5%	—
	4/20 (水)	8:50		(日) 3月貿易収支(季調済、通関ベース)	+5560億円
10:30			(豪) 第1四半期輸入物価指数 [前期比]	-3.8%	—
	15:00		(独) 3月生産者物価指数 [前年比]	+6.4%	+6.5%
	17:00		(南ア) 3月消費者物価指数 [前年比]	+3.7%	+4.0%
	17:30	◎	(英) BOE議事録	—	—
	20:00		(南ア) 2月実質小売売上高 [前年比]	+6.4%	+7.0%
	23:00	◎	(米) 3月中古住宅販売件数	488万件	500万件
				(米) 3月中古住宅販売件数 [前月比]	-9.6%
4/21 (木)	10:30		(豪) 第1四半期生産者物価指数 [前年比]	+2.7%	—
14:00			(日) 2月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	104.2	—
			(日) 2月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	106.3	—
17:00			(独) 4月IFO景況指数	111.1	110.5
17:30	○		(英) 3月小売売上高指数 [前月比]	-1.0%	-0.3%
	○		(英) 3月小売売上高指数 [前年比]	+1.2%	+1.2%
21:30	◎		(米) 4/16までの週の新規失業保険申請件数	41.2万件	—
21:30	○		(加) 2月小売売上高 [前月比]	-0.3%	+0.5%
23:00	◎		(米) 4月フィラデルフィア連銀景況指数	43.4	37.0
23:00			(米) 2月住宅価格指数 [前月比]	-0.3%	—
23:00			(米) 3月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	+0.3%
4/22 (金)	—		ウェリントン、シドニー、香港、フランクフルト、パリ、チューリッヒ、ロンドン、トロント、南ア休場(グッドフライデー)		

## 米主要企業決算予定

4/18 Monday	ハリバートン、シティグループ、
4/19 Tuesday	ノーザン・トラスト、U・S・バンコープ、バンク・オブ・NYメロン、 ゴールドマン・サックス、インテル、ヤフーインク、ステート・スト リート、ジョンソン・エンド・ジョンソン
4/20 Wednesday	IBM、AT&T、ウェルズ・ファーゴ、アメリカン・エクスプレス、
4/21 Thursday	マクドナルド、ゼネラル・エレクトリック、モルガン・スタンレー、 ベライゾン・コミュニケーションズ、

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com